



TIPS②

立体パースグリッドの設定方法

本書では各モチーフを描く前に、あらかじめ、幅、奥行き、高さの立体パースグリッドを提示しました。今後、発展的にさまざまなモチーフを描く上で、立体パースグリッドの設定や選択を自分で判断しなければなりません。では、モチーフによって、どのような考えで立体パースグリッドを設定すればよいのでしょうか。

本書の実践練習編で用いたパースグリッドは、すべて右ページの基本立体パースグリッドのみです。一見して、毎回異なるグリッドを用意したかのように見えますが、実はモチーフの特徴により、基本立体パースグリッドのどの部分を使ったかにすぎません。またモチーフをどのように見せたいかによって、グリッドを増減させている場合があります。詳しくはP.132の「本書で設定した立体パースグリッド一覧」で確認してください。

以下に立体パースグリッドを設定するポイントをあげておきますので参考にしてください。右ページの基本パースグリッドを駆使し、さまざまな立体物を自在に描けるようにチャレンジしてください。

■ 立体パースグリッドの設定ポイント

1

底面を意識する

底面が大きく見えるときはグリッドの下の方に、底面が薄くなっているときは一段上のグリッドに配置します。

2

モチーフを左右にうまく収める

端にいくほどパースグリッドはひずむので、モチーフのどの面を見せたいかを考慮しながら、できるだけセンター部のグリッドを使います。

3

モチーフがパースグリッド内に収まらない場合

モチーフが立体パースグリッド上でぎりぎりの大きさになったり、はみ出したりする場合、たとえば $5 \times 8 \times 4$ を $2.5 \times 4 \times 2$ のように同比率で小さくして配置します。パースグリッド内に置く場所の自由度が上がり、ゆがみの少ない立体物が描けます。

基本立体パースグリッド

本書の第4章で用いた基本となる立体パースグリッドです。
このグリッドを元にしてさまざまな立体物を描くことができます。
適宜拡大コピーをしてお使いください。

